

外食産業のリサイクル構想

JFでは、1991年春に環境問題対策委員会(現:エコロジー推進委員会)を設置し、外食産業の抱える環境問題についてのセミナーや情報交換会、アンケート調査などの活動を行い、その成果をまとめたレポートを発刊してきました。

93年「外食産業の環境問題に関する行動指針」

94年「外食店舗のための環境対策手引書」

95年「外食企業の環境対策」

これら一連の環境問題に関する研究報告や提言の中で取り上げたテーマのうち、

外食産業が取り組まなければならない最も緊急な課題の一つが、廃棄物処理・再資源化の問題でした。

その後、1995年3月「外食産業の廃棄物再資源化に関するレポート ～外食産業におけるリサイクルの実現をめざして～」を発刊し、

外食産業の立場から特に有機性廃棄物(生ごみ)の再資源化の実現を提唱しました。

JFでは、このレポートを外食産業のリサイクル構想と称し、

1) 外食店舗の廃棄物を、排出事業者自らの責任において素材ごとに極力再資源化(リサイクル)すること

2) とりわけ有機性廃棄物(生ごみ)については、堆肥(コンポスト)化を通じて土作りに貢献し、

さらにJF基準に基づく地元農産物の契約取引を通じて農業生産者との連携を深めること

を目指して事業活動を進めています。

再資源化ルートの確立

